JSABS
Japan Society of Applied Business Studies
日本ビジネス実務学会
会報 No.58
2013年4月10日発行
発行／日本ビジネス実務学会広報委員会
事務局／〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15 自由が丘産能短期大学内 TEL/FAX03-6809-7131(直通)
URL：http://www.b-jitsumu.com / e-mail:business.jitumu@gmail.com

ビジネス実務研究の継続と変革

池内　健治（自由が丘産能短期大学）

大学に関する雑誌の特集を目にする機会が増えてきたことに気づく毎日です。以前ならば、ビジネス誌や週刊誌などで大学の記事などを見ることはなく、せいぜい有名大学への入学者数の高校ランキングぐらいではなかったのではないでしょうか。現在、大学の存在が身近になったともいえるし、大学教育に対する批判が高まっているともいえます。

今後、大学の機能別分化が進み、教育により重点が置かれることになり、教育の質の保証が求められことになります。とくに、社会生活および職業生活に必要な能力の開発、すなわち就業力の育成を大学教育が担うことになるでしょう。本学会の研究領域である、ビジネス実務における能力開発はこの大学教育の課題に直結する研究です。

私たちはビジネス実務の現場に視点をおき、実践力の育成に目を向けて研究を積み重ねてきました。「実践の知」の創出に取り組んできた学会の蓄積が活かされる時代であるともいえましょう。ただし、ビジネス実務の現場は激変しており、これまでの蓄積だけでは、必要な能力開発を実現できるわけではありません。これまでの研究の蓄積を活かしながら、それを超える研究が求められています。

まさに、「実践の知」としてのビジネス実務研究を維持しつつ、変革を目指さねばなりません。21世紀という言葉が、遠い先にあるように感じていた時代から、21世紀に突入して、あっという間に12年が過ぎました。この間、9.11が起こり、3.11を経験しました。今回、全国大会を福島の地で開催できることは、改めて時代の転換点を振り返るよい機会になると思います。

いま、私たちは大きなパラダイム転換のただ中にいるように考えます。このような時代に遭遇したことを脅威ととらえず、新しい機会ととらえて、ともに研究を深めていきたいものです。

今回、油谷副会長、大島副会長が理事を退任され、役員構成が変わります。退任される役員の方々のこれまでのご尽力に感謝するとともに、これからもともに研究を深めていくことを願うものです。

Contents

委員会活動 ―― 2
2012年度ブロック研究会活動報告
北海道、関東・東北ブロック ―― 3
中部、近畿ブロック ―― 4
中国・四国、九州・沖縄ブロック ―― 5
発表一覧 ―― 6
2012年度ブロック運営委員 ―― 8
2012年度新入会員 ―― 8
第32回全国大会のご案内 ―― 8

委　員　会　活　動

■研究推進委員会

委員長　篠原　收（広島女学院大学）

学会奨励賞について、2012年度より、『論集』掲載論文の中からも該当するものがあれば受賞対象として選考することにした。学会奨励賞（論文）と表記することで、全国大会での研究発表と区別する。また、2013年度の全国大会からは、学会奨励賞選考対象と一般発表とを区分し、エントリー制を採用することにした。2012年度から、前年度受賞者は受賞の選考対象としないというルールが導入されているが、事前周知が徹底されていなかったことをお詫びする。

今日、大学・短期大学における教育の質保証が求められている時代である。会員一人ひとりが、教育現場で直面する課題に向き合い、総合的な教育力を発揮するためにも、研究や授業開発・実践の成果を『論集』や全国大会で積極的に発表していただく励みとなるように、学会賞、学会奨励賞を導入したということをご理解いただきたい。

■編集委員会

委員長　坪井明彦（高崎経済大学）

2012年度は、例年通り、ビジネス実務論集第31号を発行した。17件の申し込みに対して、投稿10件、各論文に対して査読者２名の審査と12月の編集委員会における審議を経て、理論調査研究６本（論文２本、研究ノート４本）、教育開発研究１本が審議を通過し（修正を条件とするもの、再審査を必要とするもの含む）、再審査辞退や掲載辞退があったため、最終的に理論調査研究４本（論文２本、研究ノート２本）、教育開発研究１本の掲載となった。

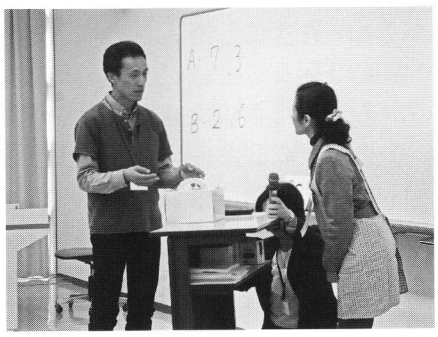
2013年度（第32号）も７月に投稿申し込みを開始し（８月上旬締め切り）、原稿の締め切りは10月になる予定である。投稿をお考えの先生方は、準備をよろしくお願いすると同時に、多くの方からの投稿をお待ちしている。

■セミナー委員会

委員長　大島　武（東京工芸大学）

２月24日（日）、大手前短期大学にて21名（欠席１名）の参加を得て、「きく・話す」教育指導法セミナーを開催した。受託研究（2012年度全国大会にて報告済）から発展させた本セミナーのねらいは、指導の際、学生がどのように感じるかをご参加の先生方にご想像いただきながら、「きく力」の自己チェック、情報の訊きだし方、さらに、話し合うことなどを体験していただくことであった。

モデル授業を紹介した「苦情処理」のセッションでは、めったに聞けないであろう池内学会長の関西弁での「クレーマー役」に、セミナースタッフがタジタジになる場面もあった。参加者からは、自分自身の「きく力」を再認識する機会が得られたというご意見などもいただき、皆様の積極的なご協力と参画のもと、当初の成果を得て終了した。



■広報委員会

委員長　椿　明美（札幌国際大学短期大学部）

広報委員会では年２回の会報を発行しているが、今回の会報からは各ブロック研究会での発表要旨はブロック報にて掲載するものと重なるため省くことにした。今後は、HPのブロック活動報告にて発表内容を確認いただくことになるのでご了承願いたい。

広報委員会の課題として、メルマガ発行を検討している。メールにてのお知らせになるため、メールアドレスを登録されていない会員の皆さまには、これを機に是非、登録をお願いしたい。（メールアドレス：business.jitumu@gmail.com）

ブロック研究会報告

北海道ブロック

■北海道ブロック研究会報告

リーダー　和田　佳子（札幌大谷大学）

(1)　ブロック研究会の動向

ブロック会員数はここ数年、入退出がありながらもほぼ30名で推移し、６ブロック中最小規模ではあるが、研究会参加者の比率は常に４割を超え、安定的な活動が継続されている。各事業の企画運営は、監事を含む11名の運営委員が適材適所の役割分担でスムーズに行なっている。また、研究会は学校種・専門分野が異なる会員同士の有意義な情報交換の場になっており、今年度入会した庄武美加子会員を始め、若手の先生たちの活発な研究発表が続いていることは喜ばしい動きである。今後もさらなる研究推進に期待したい。

(2)　2012年度ブロック研究会

今年度のブロック研究会は2012年11月４日（日）、北海商科大学を会場に開催された。出席者は14名で、５件の研究発表があった（発表者およびテーマは６頁の研究発表一覧を参照）。発表後の活発な質疑応答によって、それぞれの研究継続のために多くの示唆がもたらされた。研究発表終了後には円卓式のフリー・ディスカッションの場を設けて意見交換を行った。

また、夕刻からは「Wa・Bi・Sa　花ごころ」に席を移して和やかな懇親会が開催された。

(3)　第９回学生プレゼンテーションコンテスト

９回目を迎えたブロック研究会主催学生プレゼンテーションコンテストは、2012年12月８日（土）、北海商科大学にて開催された。今回は２大学６組９名と１名の留学生の発表があった。インターンシップやボランティア活動を題材にした体験に基づく問題発見・課題解決のプロセスが披露され、いずれの発表も聴衆を惹きつけた。審査結果は以下のとおりである。

■最優秀賞　・「少子化と共働き世帯が子供たちに与える影響－児童育成会の果たす役割－」
札幌大谷大学1年　丸猛さん・坂本燎さん

■優 秀 賞　・「私生活の中から養える社会人基礎力」
札幌国際大学3年　原田翔さん・桜井萌さん

・「社会人になるための第一歩」
札幌国際大学2年　立崎正恵さん

(4)　2012年度「ブロック研究会活動報告書」の発行

例年どおり、「ブロック研究会活動報告書（要旨集）」を３月末日に発行し、会員に郵送した。

研究会会場風景

学生プレゼンコンテスト出場者

関東・東北ブロック

■関東・東北ブロック研究会報告

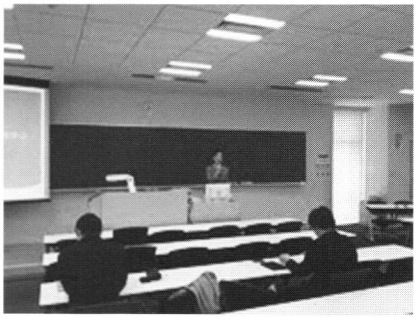
リーダー　坪井　明彦（高崎経済大学）

2013年２月17日（日）に自由が丘産能短期大学において、第40回関東・東北ブロック研究会が開催された。実行委員長は藤原由美先生（自由が丘産能短期大学）が務めた。参加者は41名であった。

総会では、助成研究として、「中小企業のインターンシップ」［古閑博美（嘉悦大学）、牛山佳菜代（目白大学）、北川宣子（カリタス女子短期大学）、佐藤美津子（多摩大学）、鈴木恵（横浜創英大学）、本多和子（横浜創英大学）］（2012年度から継続）が承認された。

研究発表は、助成研究発表２件（飯塚順一ほか１名、古閑博美ほか５名）、研究発表３件（畠田幸恵、池田るり子、藤原由美）、実践事例報告３件（宮田篤、坪井明彦、関憲治）の計８件あった（テーマ等についてはブロック研究会発表一覧［p６］参照）。

実践事例報告の後、飯塚順一先生（湘北短期大学）の進行のもとで、バズセッションと題して、関心のあるテーマ（実践事例報告のテーマ：インターンシップ、PBL、キャリア教育）を参加者が選び、グループに分かれ（インターンシップ１グループ、PBL１グループ、キャリア教育２グループ）、事例報告への質問や、その取り組みの現状や実施の方法、課題などに関して約１時間にわたって活発な意見交換が行われた。なお、バズセッション終了後も、ブロックのメーリングリストを通じて研究発表やバズセッションのテーマに関しての、問題意識に関するコメントが投稿されるなど、今後の研究・教育の活性化につながる有意義な議論がなされた。



実行委員長の挨拶

バズセッションの様子

中部ブロック

■中部ブロック研究会活動報告

リーダー　米本　倉基（藤田保健衛生大学）

中部ブロック研究会では、例年通り平成24年１月５日・６日の２日間、愛知県の名古屋経営短期大学において、今年度ブロック研究会を開催し、今回も、ブロック会員等30名、プレゼンテーション・コンテスト出場学生８組９名、そして学生スタッフを加えた大変賑わいのある研究会となった（写真）。研究発表に先立ちブロック総会が開催され、次期ブロック役員の選出と承認が行われ、次期リーダーには引き続き藤田保衛大の米本倉基が、また新たに名古屋経営短大の西川三恵子先生と佐久大学信州短大の斎藤和幸先生が運営委員に選出され、留任の金沢学院短大の國田千恵子先生、愛知東邦大学の手嶋慎介先生、岡崎女子短大の河合晋先生、名古屋学芸大短大の中村則子先生の計７名となった。と同時に、３期にわたり北陸地区のリーダー役としてブロック発展にご尽力賜りました富山短大の大崎佑一先生と、修文大学短大の佐久間潔先生が任期満了ということでやむなく一旦退任ということになった。あらためて深く感謝申し上げます。

学生プレゼンテーション・コンテストでは４つの短大からの発表があった。審査委員長の滋賀短大の清水たま子先生を中心に厳正な審査の結果、僅差で、最優秀賞に富山短大の松沢美佐さん、優秀賞には同じく富山短大の館磨美さんと名古屋経営短大の代田明日香さんが受賞された。表彰式では、特別審査員として加わってくださった元中部ブロックリーダーで現川崎医療福祉大の中村健壽先生から「プレゼンターには全人的なものが求められる」という大変胸に沁みるコメントも頂戴した（写真）。

研究会初日の夜には、名古屋経営短大の古橋エツ子学長のご厚意により、尾張旭市から名古屋市内を一望できる素敵なスカイラウンジで懇親会を盛大に開くことができた。会場への移動はリーダーの発案により、お墓の中を歩くという怖さ半分、興味津々、寒い時期の肝試し体験後、一転、眺望抜群の夜景にうっとりする綺麗な所で、前リーダーの金城大学短大の岡野絹枝先生の挨拶で幕が開けられ、会員間の親睦がより深まったのではないかと思った。

ブロック研究会発表風景

学生プレゼンコンテスト参加者

近畿ブロック

■近畿ブロック研究会活動報告

リーダー　仁平　章子（四條畷学園短期大学）

近畿ブロックでは、研究会を2012年９月29日と2013年２月９日に開催した。９月の研究会では、総会と講演、研究発表という式次第だった。講演は、「社会の問題を「研究」する方法」というテーマで、神戸大学大学院農学研究科の中塚雅也先生を講師にお迎えした。身近なところに研究テーマは存在することや、そのテーマを研究論文に結びつける方法や、調査研究に関する極意などを聞き、研究活動の励みとなった。また、先生が取り組んでおられる地域活動についても紹介していただいた。総会では、2012年度運営委員、前年度活動報告と決算報告、新年度活動計画案と予算案について承認された。その後の研究発表は、５件で活発な研究会となった。

２月研究会では、ブロック助成研究中間報告、最終報告各１件と、１件の研究発表だった。今回で６回目の学生プレゼンテーション大会を開催し、３名の学生が発表した。例年に比べてエントリー学生が少なかったが、３名はそれぞれの持ち味を存分に発揮して優れたプレゼンテーションを行った。第30回記念全国大会におけるプレゼンテーション大会発表者を決定したときは、発表者の順位付けをしたが、それ以外では順位付けや表彰は行っていなかった。先生方から、表彰した方が学生の励みにもなるので是非表彰をして欲しいというご要望があり、今回より表彰することにした。発表内容、声量、表情、パワーポイントの画面などを評価対象として運営委員が審査にあたった。どの作品も甲乙つけがたいとの講評でしたが、発表内容、画面の作成の仕方など一歩抜きん出た学生が優秀賞と、そして健闘賞２名いう結果だった。また、ジェネリックスキルの育成に関する先生方の取り組みについて情報交換を行った。それぞれ工夫を凝らしながら授業を展開しておられることが分かり、刺激を受けた情報交換会となった。

それぞれの研究会後は、懇親会を行い研究発表内容についての意見交換などを行いながら有意義なときを過ごし、授業への取り組みや研究のための意欲をもらって散会した。

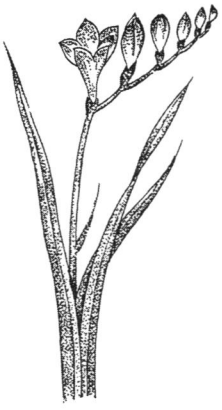
中国・四国ブロック

■中国・四国ブロック研究会活動報告

リーダー　篠原　　收（広島女学院大学）

第31回全国大会は、中国・四国ブロック担当で、広島女学院大学を会場に2012年６月９日（土）・10（日）の日程で、無事に開催することができた。第31回全国大会実行委員会（篠原委員長、桐木・松永・佃・石井副委員長、神戸・田中・曽根・粟屋・山野・渡辺和枝・渡辺裕一・関・立花・堀口・吉田・石田・河野委員、宇根事務局長、吉岡事務局員　敬称略）が中心となり、事前準備、当日業務について、それぞれに分担した役割を遂行することができた。

第29回ブロック研究会は、2012年９月１日（土）・２日（日）の２日間にわたり、徳島文理大学短期大学部において、23名の会員等と学生プレゼンテーションの発表者５名（うち１名は共同研究発表者）を加えた28名の参加を得て開催された。招待講演「私の経営理念と若年者の雇用について」(㈱サンフォート代表取締役　山城真一氏)、定例総会、第７回学生プレゼンテーション大会、会員による研究発表（４件）という内容で実施された。学生プレゼンテーションは、熱心なご指導もあり、年々プレゼンテーションの内容・方法ともに質が高くなってきており、すばらしい発表であった。10名ほどの学生が応援に駆けつけていた。



九州・沖縄ブロック

■九州・沖縄ブロック研究会活動報告

リーダー　山本　浩貴（東筑紫短期大学）

現体制から各運営委員の皆様に、それぞれ専門の業務を担当していただいており、ほぼ責任をもって業務を遂行していただいた。分担することでスムースに運営ができ、感謝している。

さて研究会報告ですが、九州・沖縄ブロックでは年２回研究会を企画しているが、10月は発表者が少なかったため開催できず、２月に１回しか開催することができなかった。反省点として、早くから広報をし呼びかけること、共同研究の実施、セミナーの充実などによって、活性化を図らなくてはならないと考えている。

研究会は年度末２月16日（土）に福岡市のアクロス福岡にて開催し、16名の会員の参加があった。昨年から実施している、企業から講師をお招きしてのセミナー企画は好評であった。今年は富士ゼロックス福岡株式会社、営業部長　町田央衡様をお招きして、

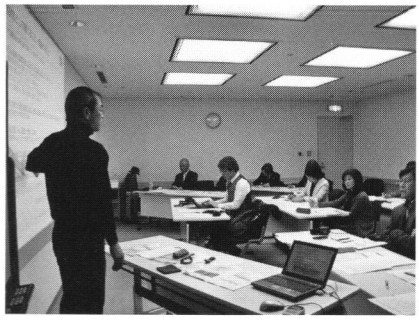
「富士ゼロックス福岡の新卒採用から育成の実態」というテーマで、内容は

・新卒者の採用と育成の方針
・具体的カリキュラムの実態と課題
・大学教育に対する要望

について、講演をしていただいた。その後、意見交換、質疑応答が大変活発に行われ、産学相互の考え方、大学における教育の質と内容、変革の必要性などを考えさせる有意義なセミナーで、大変好評であった。

その後の研究発表も教育法に関する研究など４件の発表があり、大変有意義で制限時間を超えても続けざるを得ないような状況で、大変活発な研究会だった。

大学においては、教育の質の向上、国際性・実践力のある人材の育成が求められている。大学は、産学における交流や調査、研究などによって、社会の現場の要求を把握し、優秀な人材の育成を図る必要性に迫られている。このような目標に向かって、この地域の研究会をさらに質の高い交流の場にして、大学が求められる社会の要請に貢献できる学会を目指して、継続した活動により質を高めて行かなければならないと考えている。



ブロック研究会発表一覧
（テーマ、氏名（所属）、研究領域）

■北海道ブロック研究会

1．「大学における就業力教育のこれからの在り方についての一考察　―企業へのアンケート調査を中心として―」
千葉里美（札幌国際大学）、和田早代（札幌国際大学）、牛嶋和夫（札幌国際大学）
【2】ビジネス実務の調査研究 3)個人とチームの実務能力の開発

2．「医療系事務職のキャリアプラン」
庄武美加子（札幌医科大学）
【2】ビジネス実務の調査研究 3)個人とチームの実務能力の開発

3．「ホスピタリティマインド構築の方法とその効果」
長谷川修（札幌国際大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

4．「ビジネス実務の変遷―ビジネス活動を雇用と商業史で読み解く―」
加藤由紀子（北海商科大学）
【2】ビジネス実務の調査研究　1)ビジネス環境と実務

5．「高等教育におけるキャリア教育の現状と課題―キャリア教育の類型化と方向性―」
椿明美（札幌国際大学短期大学部）、和田佳子（札幌大谷大学）
【2】ビジネス実務の調査研究　1)ビジネス環境と実務

■関東・東北ブロック研究会

1．「ビジネスと社会貢献　～社会が求める企業の存在とは」
飯塚順一（湘北短期大学）、飯塚美穂子（洗足こども短期大学）
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

2．「中小企業のインターンシップ研究　―アンケート結果の考察を中心に―」
古閑博美（嘉悦大学）、牛山佳菜代（目白大学）、北川宣子（カリタス女子短期大学）、佐藤美津子（多摩大学）、鈴木恵（横浜創英大学）、本多和子（横浜創英大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

3．「目的志向に根ざした情報リテラシー教育」
畠田幸恵（湘南短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

4．「短期大学におけるグローバル人材育成のための国際教育の現状と方向性―自由が丘産能短期大学の取り組み」
池田るり子（自由が丘産能短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

5．「教育の質の保証の視点によるビジネスマナー教育の基本技能到達度テスト」
藤原由美（自由が丘産能短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

6．「栄養士インターンシップの学生・担当者双方による評価とふり返り」
宮田篤（青森中央短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

7．「ゼミ活動を通じたPBL実践の効果と課題―㈱リクルート北関東マーケティングからのミッション」
坪井明彦（高崎経済大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

8．「自由が丘産能短期大学の２年間に渡るキャリア教育の実践」
関憲治（自由が丘産能短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

■中部ブロック研究会

1．ブロック助成研究発表：「四大と短大の就業力育成融合モデルの検討」
手嶋慎介（愛知東邦大学）、野添雅義（高山自動車短期大学）、岡野大輔（金城大学）、加納輝尚（富山短期大学）、河合晋（岡崎女子短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

2．「段階的な概念地図作成活動による企画力養成の試み」
尾関智恵（岡崎女子短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

3．「営業でのプレゼンテーションの実際―ホンダ系ディーラーの営業職向け話し方教室（出張講座）の体験―」
戸田昭直（浜松学院大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

4．「学生による産学共同ポータルサイト製作と学習効果に関する考察―起業意識調査を踏まえて―」
河合晋、町田由徳、尾関智恵、諏訪純代（岡崎女子短期大学）
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

5．「本学における観光ビジネス教育の取り組みについて」

島宗俊郎、西川三恵子(名古屋経営短期大学)
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

6．「『もしドラ』ブームを踏まえた経営学教育の方向に関する一考察」
奥村実樹(金沢星稜大学)
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

7．「簿記講義のシラバスの再検討について」
河合晋(岡崎女子短期大学)
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

8．「中小企業会計の改革とビジネス実務への影響」
加納輝尚(富山短期大学)
【2】ビジネス実務の調査・研究　1)ビジネス環境と実務

■近畿ブロック研究会

1．「新興国進出の日本企業の人材マネジメント
ービジネスモデル実現のための湖南平和堂の現地人材活用と競争優位性の構築ー」
川端勇樹(国際大学)、西尾久美子(京都女子大学)
【2】ビジネス実務調査・研究　1)ビジネス環境と実務

2．「持続可能な社会システム構築に拠る新しいビジネス実務の創造（第１報）
ー時代を切り拓くビジネス実務の視座からー」
林雄太郎(大阪キリスト教学院)
【2】ビジネス実務調査・研究　2)時代を切り開くビジネス実務

3．「女性の就労環境はどう変わったのか
ー均等法施行から四半世紀を経てー」
前角和宏(神戸海星女子学院大学)
【2】ビジネス実務調査・研究　2)時代を切り開くビジネス実務

4．「女性農業者に対する全国的組織の支援に関する研究
ードイツ農村女性連盟の支援と比較しながらー」
仁平章子(四條畷学園短期大学)
【2】ビジネス実務調査・研究　1)ビジネス環境と実務

5．「就職試験と物理・数学」
樋口勝一(神戸海星女子学院大学)
【2】ビジネス実務調査・研究　3)個人とチームの実務能力の開発

6．2011・2012年度研究助成最終報告
「近畿の大学・短期大学におけるビジネス資格指導状況調査」
樋口勝一(神戸海星女子学院大学)、仁平征次(元四天王寺大学)
【2】ビジネス実務調査・研究　3)個人とチームの実務能力の開発

7．2012・2013年度研究助成中間報告
「キャリア初期の成長に有効な人間関係に関する研究」
坂本理郎(大手前大学)、西尾久美子(京都女子大学)
【2】ビジネス実務調査・研究　3)個人とチームの実務能力の開発

8．「持続可能な社会システム構築に拠る新しいビジネス実務の創造（第二報）
ー時代を切り拓くビジネス実務人材像考察（Ⅰ）ー」
林雄太郎(大阪キリスト教学院)
【2】ビジネス実務調査・研究　2)時代を切り開くビジネス実務

■中国・四国ブロック研究会

1．「ビジネス実務演習から企業研修への連携のための考察」
石井三恵、吉田順子(広島女学院大学)
【2】ビジネス実務の調査・研究　2)時代を切り拓くビジネス実務

2．「情報公開と秘密の保護についての一考察（その４）ー社会の更なる安定化装置としてのFS技術ー」
曽根康仁(関西学院大学)
【2】ビジネス実務の調査・研究　2)時代を切り拓くビジネス実務

3．「外国人裁判における感情労働に関する一考察
ー司法通訳人に焦点をあててー」
佐藤麻衣(川崎医療福祉大学)
【2】ビジネス実務の調査・研究　2)時代を切り拓くビジネス実務

4．「すぐには結果の出ない「英語力」ー英語診断テストの結果比較からー」
堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

■九州・沖縄ブロック研究会

1．「新卒者の就業マッチングの研究ー大卒未就業者が抱える困難とその行動特性を調査してー」
井上奈美子(筑紫女学園大学)
【2】ビジネス環境と実務　1)ビジネス環境と実務

2．「TBL(Team-Based　Learning)によるコミュニケーション力の育成ー「きく・話す」能力を中心としてー」
大橋健治、天野緑郎(筑紫女学園大学短期大学部)
【1】ビジネス実務の教育開発研究　2)授業方法の研究

3．「韓国ビジネス法制に関する一考察（その１）」
北原康司(釜山女子大学校)
【2】ビジネス環境と実務　1)ビジネス環境と実務

4．「ARCSモデルに基づく授業改善とその成果
ー１年生向けキャリア科目の学生評価とジェネリックスキルの成長値を比較してー」
見舘好隆(北九州市立大学)
【1】ビジネス実務の教育開発研究　3)授業方法の研究

□ 2012年度ブロック運営委員

■北海道ブロック運営委員
◎和田　佳子(札幌大谷大学)
○武井　昭也(札幌国際大学)
沢田　　隆(札幌国際大学)
椿　　明美(札幌国際大学短期大学部)
加藤由紀子(北海商科大学)
長谷川　修(札幌国際大学)
大塚　　映(札幌医療秘書福祉専門学校)
官尾　昌子(北海道武蔵女子短期大学)
和田　早代(札幌国際大学)
高橋　秀幸(北海道武蔵女子短期大学)

■関東・東北ブロック運営委員
◎坪井　明彦(高崎経済大学)
○岡田小夜子(大妻女子大学短期大学部)
○飯塚　順一(湘北短期大学)
○齋藤　勇二(自由が丘産能短期大学)
阿部　康子(マリアこくさま保育園)
石井　典子(一般財団法人キャリア教育振興協会)
北川　宣子(カリタス女子短期大学)
髙橋眞知子(常磐短期大学)
寺村絵里子(国際短期大学)
長谷川文代(湘北短期大学)
藤原　由美(自由が丘産能短期大学)
山口　憲二(新島学園短期大学)
渡邉　大輔(衆議院議員福田達夫事務所)

■中部ブロック運営委員
◎米本　倉基(藤田保健衛生大学)
○大崎　佑一(富山短期大学)
佐久間　潔(修文大学短期大学部)
國田千恵子(金沢学院短期大学)
河合　　晋(岡崎女子短期大学)
手嶋　慎介(愛知東邦大学)
中村　則子(名古屋学芸大学短期大学部)

■近畿ブロック運営委員
◎仁平　章子(四條畷学園短期大学)
○中川　伸子(神戸女子短期大学)
油谷　純子(目白大学短期大学部)
服部美樹子(大阪学院短期大学)
加藤　晴美(プール学院大学短期大学部)
福井　愛美(大手前大学)
徳田　　豊(関西外語大学短期大学)
足塚　智志(大手前短期大学)
樋口　勝一(海星女子学院大学)
野坂　純子(大手前短期大学)
苅野　正美(プール学院大学短期大学部)
兒島　尚子(大阪樟蔭女子大学短期大学部)

■中国・四国ブロック運営委員
◎篠原　　收(広島女学院大学)
○桐木　陽子(松山東雲短期大学)
粟屋　仁美(比治山短期大学部)
曽根　康仁(関西学院大学)
渡辺　裕一(川崎医療福祉大学)
宇根　　治(広島女学院大学)

■九州・沖縄ブロック役員名簿
◎山本　浩貴(東筑紫短期大学)
○大重　康雄(鹿児島女子短期大学)
西村　香織(折尾愛真短期大学)
木原すみ子(九州龍谷短期大学)
花崎　正子(近畿大学九州短期大学)
有馬　恵子(鹿児島女子短期大学)
大橋　健治(筑紫女学園大学短期大学部)
長野　史尚(九州共立大学)
大城　智美(沖縄女性研究者の会)
坂本　一登(福岡女子短期大学)

◎印…ブロックリーダー
○印…サブリーダー

2012年度　新入会員

正会員

会員名	勤務先	ブロック	会員名	勤務先	ブロック
森合　恵子	郡山情報ビジネス専門学校	関東・東北	河野　　毅	福島学院大学短期大学部	関東・東北
老川　香苗	東京工学院	関東・東北	山田　陽子	名古屋市立大学	中部
宮口　直人	株式会社ビズユナイテッド	関東・東北	加渡いづみ	四国大学短期大学部	中国・四国
木村　信綱	福島学院大学　短期大学部	関東・東北	天野　緑郎	MC＆フューチャーコンサルティング	九州・沖縄

学生会員

会員名	所属先	ブロック	会員名	所属先	ブロック
楠田　弥恵	横浜市立大学	関東・東北	樋谷　美紀	法政大学大学院	関東・東北

第32回（2013年度）総会・全国大会のご案内

すでにご案内のとおり、第32回全国大会を下記の通り開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

1．テーマ：「ビジネス実務教育を活用したジェネリックスキルの育成」
2．日　時：6月8日（土）・6月9日（日）
3．会　場：福島学院大学
8日（土）：宮代キャンパス　〒960-0181　福島市宮代乳児池1-1
9日（日）：福島駅前キャンパス　〒960-8505　福島市本町2-10
＊1日目と2日目の会場が異なります。ご留意ください。
4．開催ブロック：関東・東北ブロック